

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22320169

研究課題名（和文）「地域文化」の生産・流通・消費に関する文化地理学的研究

研究課題名（英文）A cultural geographical study on the production, circulation and consumption of “regional culture”

研究代表者

大城 直樹（OSHIRO Naoki）

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号：00274407

研究成果の概要（和文）：本研究では、「地域文化」が、近代以降どのように生産され、流通し、消費されるかに関して、文化地理学の視角から検討を行った。ここでいう「地域文化」には、特定の地域の生活様式のみならず、当該地域がその地に住む人々や他者にどのように表象されているか、ということも含まれる。よって観光や民俗、民芸のみならず、地域博覧会や博物館、百貨店の物産展、なども研究対象となる。その結果、各種の事例研究を通して、「地域文化」なるものが立ち現わる契機とその文脈には、資本主義の発達に伴う、通信・運輸、マス・メディアや広告の展開、消費行為と言説の大衆化の関係性などが複雑に絡み合っていることを明らかにすることが出来た。

研究成果の概要（英文）：In this research project, we aimed to investigate on how “the regional cultures” were produced, circulated and consumed during the modern era from cultural geographical perspective. The term “regional culture” means here not only a ‘way of life’ in a specific region but also a way how relevant region is represented by natives or others. Consequently, subject matters we covered in this study include not only the theme of tourism, folklore, folk craft, but also the events like regional exhibition, products exhibition in department store and so on. In the result, we articulated, through various case studies, some aspects of complex imbrication in the relationship among development of communication and transportation, deployment of mass media and advertising, and popularization of behavior and discourse around consumption along with the upgrowth of capitalism in the moment and context of the manifestation of “regional culture”.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	5,500,000	1,650,000	7,150,000
2011年度	4,600,000	1,380,000	5,980,000
2012年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
総計	14,600,000	4,380,000	18,980,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：地域文化 文化地理学 生産 流通 消費 観光 民俗 民芸

1. 研究開始当初の背景

本研究は、広いコンテキストでいえば、資

本主義の発達とモダニティ（近代性）との関係性がいかなる様式を持ち、社会生活にどの

ような作用をもたらしたかを対象とする問題系に連なるものである。そしてとりわけ文化的局面に注目し、我々の身体性と表象（ないしはイメージ形成）へのその影響圏を精査しようというものである。本研究は、前回（H19～21年度：基盤(B)（一般）：地理思想および社会思想としての「郷土」に関する研究〔以下「郷土科研」と略す〕）に引き続き、基本的な地理的概念である「地域」ならびにそれと連動する「地域文化」なるものをめぐって交錯する諸表象と諸実践に焦点を当てて、それがなぜ「分節化（曖昧な状況からはっきりと形をとるようになること）」される必然があったかを問うことにある。「郷土科研」では、「郷土」という概念のそもそもの成立から、地方改良運動、郷土教育運動、郷土博物館、地域的なメディア・イベントなどについて、時系列的にたどり、「郷土」なるものがどのように表象され、またそれをめぐって官民間わずどのような実践が行われてきたかを考察した。一定の研究成果は確実に上げたが、研究が深まるにつれ、いったん「郷土」という術語から離れて、同様の事象と比較検討する必要性を感じるようになった。そこで「地域」および「地域文化」という術語に着目し、より広いコンテキストにおける表象と実践、ならびにそれらの現前と事象を存立可能とならしめる要件について精査していくこととした。

2. 研究の目的

上記存立要件を考察するべく、19世紀この方のモダニティ（近代性）と資本主義の連関の追求を前提とする。産業革命以降の資本主義の新たな展開にとって輸送機関の敷設・整備、情報・通信の発展、都市インフラ（工場・住宅・道路・上下水道・市場）の創造的破壊と改造、各種メディア（新聞・小説・写真・映画）の進展は必要不可欠であった。モダニティの曙光射す時代からポストモダンの現代まで、それらは不断にイノベーションを繰り返し、われわれの身体と空間の関係性や「モノの見方 ways of seeing」に大きな影響を与えてきた。そしてそのみならず、これらテクノロジーの発展は国家形態とも連動していた。その端的な例が博覧会である。実際、帝国主義ならびに植民地主義と博覧会は切っても切れない関係にあった。地理的領土の拡大、地理的知識の蓄積、テクノロジーの発展競争等、スペクタクルな光景を現出させることによって、観客に国家的威信とその野望とを刷り込んでいったのである。こうした状況を「資本主義とモダニティの問題系」として設定することが可能であろう。つづいて、「メディアの問題系」というものを設定することができよう。ここでいうメディアとは広義のものであって、ハードなメデ

ィア（景観、建造環境）とソフトなメディア（言説、映像、音楽、）の双方を含意する。そして「地域文化」とこれらメディアとの接点として、ツーリズム、そして「地域文化」としての「民俗」および「民芸」も同じく重要な問題対象となる。

また、「地域文化」がディスプレイされ、それを観客が見たり体験したりすることが近代以降顕著となった。各種メディア・イベントや博覧会、博物館、展示会などがその装置である。これらの装置に出向き、その空間の中で再現されていることを享受することは、メディアを媒介・媒体として可能になったひとつの「消費」行為とえるし、また、かような娯楽やレジャーや教養を身につけることは、資本主義分析の視角からすれば労働力再生産の問題に他ならない。よってここでは「消費」の問題系」と設定することが可能である。これら三つの問題系をまず事例研究で考察し、それらの相互連関を理論的に問うて行くことが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、「地域文化」なるものを文化地理学的に理解し分析するために、三つのジャンルを設けそれぞれに研究班を設ける。「表象と再生産研究班」は、展覧会、メディア・イベント、博物館などの建造環境やイベントを対象とし、その存立可能性について検討を行っていく。「メディアの展開研究班」は、そうした存立を可能ならしめた鉄道・船舶などの輸送機関の発達、写真・映画・レコードなどの複製芸術の発達を基盤とするマス・メディアの展開、アカデミア内外での「ローカル」なもの（民芸・民俗）の発見、観光現象について検討する。「思想史・理論研究班」は、より一般的な現象分析として、広告文化と消費行動と、それらと連動する「ものの見方」の変容、それに大きく貢献した視覚の優位、さらにそれによって生じた空間と身体の関係の変化、またその変化が自明視されていく過程（自然化）について検討を行う。各班の成果については各年度に数度の研究会を開催し情報を共有する。また国際・国内の学会・雑誌において成果報告を行う。

4. 研究成果

本研究はこれまで日本においては個別のになされてきた「地域文化」に関する諸研究に、一般的で包括的な知的枠組みを提供しようとする点において独創的である。文化地理学を基盤としながら、政治、経済、社会の諸局面に目配せを行い、近代以降約150年にわたる「地域文化」の分節化の過程を明らかにしようとする試みはこれまで行われてこなかった。空間的視角を欠く社会学や人類学、

文化史で行われきた文化研究とは質的に異なる成果の達成をもくろむという点に特徴があるともいえよう。たとえば「地域」という術語は、隣接社会科学においては「ルーラルな」という形容詞を実質的に含意することが多いが、地理学ではそのような含意を伴わない。この利点を活用し、巷間に溢れる「地域文化」をめぐる論点を整理し、地理学の有効性を提示することができたという点において、本研究の意義は大いにあるものと言えるはずである。実際、下記の本研究成果—例えば「表象と再生産研究班」は博覧会や、博物館、鳥瞰図、絵葉書などをとりあげその表象の生産・再生産を追求。「メディアの展開研究班」は国内外の観光地イメージの流通と消費、雑誌における旅行表象の生産と流通を考察。「思想史・理論研究班」は地域表象の学説史的を分析し、場所・地域研究の概念的枠組を模索するといったような—をみれば、論説諸分野との連携あるいは分野を横断する形で研究が行われていることが明らかである。国外においては、2011年8月の国際批判地理学会議(フランクフルト)で6本、2012年8月の国際地理学会議(ケルン)で5本報告を行い、各国地理学者たちと討論ないしは意見交換を行うことで、本研究が日本におけるユニークな研究であることを知らしめることが出来た。また2013年3月末には総括の意を込め、日本地理学会春季学術大会(立正大学)でシンポジウムを行って研究成果を公表し、報告者のなかでの見解調整や意思統一、またフロアとの積極的な意見交換・議論を行うことで、当該研究題目の妥当性を確認することができた。以上より、本研究は、従来の斯界における研究蓄積を刷新し、新たな領域を開いたものと自負できるし、これらの成果を更に展開させるべく、今後も引き続き研究グループを組織しつつ共同研究を行っていく必要があるものと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 24 件)

- ① 島津 俊之, 田山花袋の紀行文論再考, 空間・社会・地理思想, 査読無, 16, 2013, 47-66
- ② 遠城 明雄, 明治期の地方都市における選挙と地域社会—福岡市の地方政治状況に関する覚書—, 史淵, 査読無, 150, 2013, 117-158
- ③ 神田 孝治, 白川郷へのアニメ聖地巡礼と現地の反応—場所イメージ および 観光客をめぐる 文化政治—, 観光学, 査読無, 7, 2012, 23-28
- ④ Koji KANDA, The Selection Process of National Park Landscape Areas and the Imaginative geographies in Taiwan during

the Japanese Colonial Period, ACADEMIC WORLD of Tourism Studies, 査読無, 1, 2012, 77-87

- ⑤ 加藤 政洋, 「大阪 1990 空間構想と〈場所〉の創出」, 現代思想, 査読無, 20-6, 2012, 220-237
- ⑥ Shimazu, T., Fukuda, T. and Oshiro, N., Imported scholarship or indigenous development? Japanese contributions to the history of geographical thought and social/cultural geography since the late 1970s, 人文地理, 査読有, 64-6, 2012, 2-24
- ⑦ 森 正人, 巡礼の近代性と物質性—四国遍路を事例に一, 2011年度四国遍路と世界の巡礼: 公開講演会・研究集会プロシーディングズ, 査読無, 2012, 27-36
- ⑧ 森 正人, 巡礼の近代性—西国三十三箇所巡礼競争—, 人文論叢(三重大学人文学部), 査読無, 29, 2012, 45-55
- ⑨ 関戸 明子, 鳥瞰図にみる近代-草津温泉を事例として, 歴史地理学, 査読有, 54, 2012, 39-53
- ⑩ 島津 俊之, 地理学者としての高島北海, 空間・社会・地理思想, 査読無, 15, 2012, 51-75
- ⑪ 大城 直樹, 場所の系譜学再考—あるいは風景の別の読み方について—, 歴史地理学, 査読有, 54-1, 2012, 30-38
- ⑫ 神田 孝治, キャンプ・マックネア周辺における遊興地の成立と地域社会—山梨県南都留郡中野村山中地区を事例として—, 観光学, 査読無, 5, 2011, 37-42
- ⑬ 神田 孝治, 日本統治期台湾における国立公園の風景地選定と心象地理, 歴史地理学, 査読有, 255, 2011, 1-26
- ⑭ 神田 孝治, 与論島観光におけるイメージの変容と現地の反応, 観光学, 査読有, 6, 2011, 21-31
- ⑮ 関戸 明子, 絵はがきから草津温泉の景観を読む, えりあぐんま, 査読無, 17, 2011, 43-56
- ⑯ 荒山 正彦, 忘れられた植民地ツーリズムの軌跡, 時計台(関西学院大学図書館報), 査読無, 81, 2011, 16-22
- ⑰ 大城 直樹, 東アジア地域における琉球=沖縄のポジションナリティの変化について, Cultural Interaction Studies of Sea Port Cities (Korea Maritime University), 査読有, 5, 2011, 87-108
- ⑱ 遠城 明雄, 地方都市の政治状況に関する研究ノート—一八八九～一九一二年の仙台市—, 史淵, 査読無, 148, 2011, 69-100
- ⑲ 島津 俊之, 経験とファンタジーのなかの和歌の浦—田山花袋「月夜の和歌の浦」を読む—, 空間・社会・地理思想, 査読無, 14, 2011, 40-66
- ⑳ 福田 珠己, 棚橋源太郎の博物館論と郷土

の具体化, 空間・社会・地理思想, 査読無, 14, 2011, 1-12

②神田 孝治, 沖縄イメージの変容と観光の関係性—米軍統治時代から本土復帰直後を中心として—, 観光学, 査読有, 4, 2010, 23-36

③中島 弘二, 沖縄における自然保護と基地反対運動, 生物学史研究, 査読無, 84, 2010, 51-71

④福田 珠己, 人文地理学と博物館との接点を求めて, 地理, 査読無, 55-10, 2010, 39-44

⑤中島 弘二, 沖縄における自然保護と基地反対運動, 地理科学, 査読有 65-3, 2010, 231-241

〔学会発表〕(計 40 件)

①島津 俊之, 地理学を野外に据える—19 世紀後半のベルギー王国における地理学者の塑像の出現—, 人文地理学会第 112 回地理思想研究部会, 2013 年 3 月 31 日, あすか会議室

②大城 直樹, 「地域文化」の生産・流通・消費に関する文化地理学的研究, 日本地理学会, 2013 年 3 月 30 日, 立正大学

③島津 俊之, 安政元年のハザードマップ—紀伊国広における地震津波災害記録の生産と災害文化—, 日本地理学会 2013 年春季学術大会, 2013 年 3 月 30 日, 立正大学

④福田 珠己, 地域遺産としての景観—近代日本の景観概念・制度を中心に, 日本地理学会, 2013 年 3 月 30 日, 立正大学

⑤遠城 明雄, 地域文化としての選挙, 日本地理学会, 2013 年 3 月 30 日, 立正大学

⑥中島 弘二, 基地と地域文化—名護市東海岸を事例として—, 日本地理学会春季学術大会, 2013 年 3 月 30 日, 立正大学

⑦荒山 正彦, 開道五十年記念北海道博覧会と地域文化, 日本地理学会春季学術大会, 2013 年 3 月 30 日, 立正大学

⑧関戸 明子, 秋山郷における秘境イメージの形成と流通, 日本地理学会, 2013. 3. 30., 立正大学

⑨濱田 琢司, 地域文化の新たな見せ方と消費—「デザイントラベル」と「土祭」を中心に—, 日本地理学会春季学術大会, 2013/3/30, 立正大学

⑩加藤 政洋, 「お座敷あそび」はどこでする?—遊興文化の制度化, あるいは文化ポリティクスとしての風俗営業取締り, 日本地理学会大会, 2013 年 3 月 30 日, 立正大学

⑪神田 孝治, 映像メディアによる観光地の新しい空間表象と現地の反応, 日本地理学会大会, 2013 年 3 月 30 日, 立正大学

⑫神田 孝治, 文化／空間論的転回と観光学, 和歌山大学観光学会例会, 2013 年 3 月 20 日, 和歌山大学

⑬中島 弘二, 基地関連地域振興事業を通じた生活環境の改変と地域文化の再編—名護市

辺野古と二見以北十区を事例として—, 2012 年人文地理学会大会, 2012 年 11 月 18 日, 立命館大学

⑭神田 孝治, 観光空間の生産と地理的想像力, 日本観光研究学会関西支部観光学研究部会, 2012 年 10 月 11 日, 阪南大学

⑮福田 珠己, 「家庭的なるもの」の文化地理—公的領域における家族像の配置と流通をてがかりに—, 人文地理学会, 2012 年 11 月 17 日, 立命館大学

⑯OSHIRO Naoki, Poetics of signs: Reading "feng-shui"(geomancy) landscapes in Ryukyu-Okinawa islands, 32nd International Geographical Congress(IGC), 2012 年 8 月 27 日, Koeln Universitaet (Germany)

⑰Tamami Fukuda, Institutionalization of landscape in Japan: between academism and social institutions, International Geographical Congress, 2012 年 8 月 26-30 日, University of Cologne

⑱SHIMAZU Toshiyuki, Edmund Naumann as Geographer: Neglected Aspects of the German Father of Japanese Geology, 32nd International Geographical Congress, 2012 年 8 月 27 日, University of Cologne, Germany

⑲Koji Nakashima, Critical inquiry into national environmentalism in modern Japan, The 32nd International Geographical Congress Cologne, 2012 年 8 月 27 日, ドイツ連邦共和国・ケルン市・ケルン大学

⑳Masato Mori, Racialising nation through sensibilities of hate in Japan, 32nd International Geographical Congress, 30 August, 2012, ケルン (ドイツ)

㉑Masato Mori, Nationhood and biopolitics in the Post war Japan, 15th International Conference of Historical Geography, 10 August, 2012, プラハ (チェコ)

㉒神田 孝治, 文化／空間論的転回と観光学研究, 観光学術学会大会, 2012 年 7 月 8 日, 和歌山大学

㉓島津 俊之, 「暴風記事」から立ち上がる地名と地域意識—内務省地理局と「紀伊半島」の言語的構築—, 人文地理学会第 276 回例会, 2012 年 6 月 9 日, 和歌山大学

㉔森 正人, Governmentality through creation of 'Nature' in Singapore, The 6th East Asia Regional Conference for Alternative Geography, 2012 年 2 月 15 日, マラヤ大学 (マレーシア)

㉕遠城 明雄, 福岡城址からみた戦後日本の中央と地方, 福岡地理学会, 2012 年 1 月 22 日, 福岡大学

㉖神田 孝治, 被災地の観光振興とイメージ戦略, 立命館地理学会大会, 2011 年 11 月 26 日, 立命館大学

- ⑳神田 孝治, 与論島観光におけるイメージの変容と現地の対応, 人文地理学会大会, 2011年11月13日, 立教大学
- ㉑大城 直樹, 場所の系譜学再考—あるいは風景の別の読み方について—, 第54回歴史地理学会大会シンポジウム「近代の歴史地理・再考」, 2011年6月26日, 山口大学(日本)
- ㉒大城 直樹, 東アジア地域における琉球=沖縄のポジショナリティについて, 第1回国際海洋文化研究会議, 2011年4月16日, 韓国海洋大学(韓国)
- ㉓中島 弘二, 大分県日出生台演習場における軍事化と抵抗, 日本地理学会2011年秋季学術大会, 2011年9月23日, 大分大学
- ㉔ OSHIRO Naoki, Searching Okinawan Identity in the Era of New Geopolitics in the East Asia, The 6th International Conference of Critical Geography (ICCG), 19Aug. 2011, Goethe-Universitaet Frankfurt am Main, (Germany)
- ㉕ MORI Masato, Nationhood and Biopolitics in the Postwar Japan, The 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日, フランクフルト大学(ドイツ)
- ㉖ SHIMAZU Toshiyuki, From Topophilia to Imperial Patriotism: The Homeland Education Movement in Wartime Japan, The 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日, Goethe University Frankfurt am Main, Germany
- ㉗ ONJO Akiyo, Sanitary surveillance and the control of urban space in modern Japan, 1890-1910, The 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日, Goethe University, GERMANY
- ㉘ NAKASHIMA Koji, Re-appropriation of nature in the grassroots antiwar movement: towards alternative bio-politics, The 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月17日, University of Frankfurt, Frankfurt, Germany
- ㉙ FUKUDA Tamami, Teaching Critical Geography in Neoliberal Times, The 6th International Conference of Critical Geography, 2011年8月18日, Goethe University, Frankfurt, Germany
- ㉚ 福田 珠己, 地域博物館とナショナリズム, 南山大学人類学博物館・歴史部会シンポジウム, 2010/11/13, 南山大学(名古屋市)
- ㉛ 福田 珠己, Embodiment of homeland (kyodo) in museums in modern Japan: Gentaro Tanahashi and his unfinished project, International Geographical Union, 2010/7/13, Dan Panorama Hotel (Tel Aviv, Israel)
- ㉜ SHIMAZU Toshiyuki, Encountering a

Geographical Modernity: Shibusawa Eiichi's Visit to the Etablissement Geographique de Bruxelles, 1867, International Geographical Union, 2010/7/11, Tel-Hai Academic College, (Kfar Giladi, Israel)

㉝ 福田 珠己, 「文化」+「景観」?: 地理学における複雑な状況, 第1回文化的景観学研究会, 2010/7/30, 奈良文化財研究所

〔図書〕(計17件)

- ① 神田 孝治, 同文館, 「観光と文化」(大橋昭一編『現代の観光とブランド』) pp. 59-66., 2013, 198
- ② 明治大学博物館・南山大学人類学博物館編, 岩田書院, 『博物館資料の再生 自明性への問いとコレクションの文化資源化』(濱田琢司「創造/想像される「伝統」~本質主義的民芸理解と柳宗理「民芸の行方」との相克から~」(pp. 36-57) 担当), 2013, 275p.
- ③ 神田 孝治, ナカニシヤ出版, 観光空間の生産と地理的想像力, 2012, 240
- ④ 鞍田崇ほか編, 濱田琢司ほか著(共著), フィルムアート社, 『〈民藝〉のレッスン つたなさの技法』(「クリエイティブツーリズム—民藝とローカリティ」, pp. 117-123 ほか担当), 2012, 205
- ⑤ 杉浦 芳夫(編著)・福田 珠己ほか計17名, 朝倉書店, 地球環境の地理学, 2012, 192
- ⑥ 森 正人, 洋泉社, 『歴史発見! ロンドン案内』, 2012, 190
- ⑦ 森 正人, 里文出版, 『英国風景の変貌—恐怖の森から美の風景へ—』, 2012, 251
- ⑧ 神田 孝治, 新宿書房, 「温泉地と想像力」(現代風俗研究会編『現代風俗 物見遊山—旅と娯楽の風俗学』) pp. 22-26., 2012, 190
- ⑨ 大城 直樹, 朝倉書店, 「認識としての文化」(中俣 均編『空間の文化地理』所収), 2011, 176
- ⑩ 加藤 政洋, フォレスト, 那覇 都市の戦後復興と歓楽街, 2011, 240
- ⑪ パナソニック電工汐留ミュージアムほか企画, 濱田 琢司ほか著(共著), 美術出版社, 『理想の暮らしを求めて 濱田庄司スタイル』(「田舎暮らしへの志向とモダニズム的心性」, pp. 34-41 担当), 2011, 163
- ⑫ 安村克己・堀野正人・遠藤英樹・寺岡伸吾編著(神田 孝治: 分担執筆), ミネルヴァ書房, 『よくわかる観光社会学』(分担執筆部分: 「観光客のまなざし」 pp. 60-61, 「地理学における観光」 pp. 118-119, 「ジョン・アーリ」 pp. 202-203), 2011, 212
- ⑬ 青木義英・廣岡裕一・神田 孝治編著, 新曜社, 観光入門—観光の仕事・学習・研究をつなぐ, 2011, 178
- ⑭ 森 正人, 朝倉書店, 「変わりゆく文化・人間概念と人文地理学」(中俣 均編『空間

の文化地理』所収), 2011, 176

⑮大城 直樹, 東信堂, 「空間から場所へ」(吉原直樹・斎藤日出治編『モダニティと空間の物語』所収), 2011, 324

⑯関戸 明子, 文一総合出版, 「近代における林野利用と山村の生業—長野県旧塚村の部落有林野統一事業をめぐる」, (湯本貴和・池谷和信・白水智編『山と森の環境史』所収, 259-280), 2011, 384

⑰森 正人, 中央公論新社, 『昭和旅行誌—雑誌『旅』を読む』, 2010, 278

[その他]

ホームページ等

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~oshiro/cbl.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大城 直樹 (OSHIRO Naoki)

神戸大学・大学院人文学研究科・准教授

研究者番号: 00274407

(2) 研究分担者

関戸 明子 (SEKIDO Akiko)

群馬大学・教育学部・教授

研究者番号: 50206629

島津 俊之 (SHIMAZU Toshiyuki)

和歌山大学・教育学部・教授

研究者番号: 60216075

荒山 正彦 (ARAYAMA Masahiko)

関西学院大学・文学部・教授

研究者番号: 70263184

遠城 明雄 (ONJO Akio)

九州大学・大学院人文科学府・教授

研究者番号: 00243866

中島 弘二 (NAKASHIMA Koji)

金沢大学・人間学系・准教授

研究者番号: 90217703

福田 珠己 (FUKUDA Tamami)

大阪府立大学・人間社会学部・教授

研究者番号: 80285311

加藤 政洋 (KATO Masahiro)

立命館大学・文学部・准教授

研究者番号: 30330484

濱田 琢司 (HAMADA Takuji)

南山大学・人文学部・准教授

研究者番号: 70346287

神田 孝治 (KANDA Koji)

和歌山大学・観光学部・准教授・

研究者番号: 90382019

森 正人 (MORI Masato)

三重大学・人文学部・准教授

研究者番号: 10372541

(3) 連携研究者

なし